コミュニティ形成に果たすグループ活動とキーパーソンの役割

-1960年代のミニ開発住宅地における近隣交流に関する研究 その3-

THE ROLE OF GROUP ACTIVITIES AND KEY PERSONS IN A COMMUNITY

- Research on the neighborhood communication in the mini-housing development in the 1960s Part 3 -

田口 槇子*, 曾根 陽子**

Makiko TAGUCHI and Yoko SONE

This study examines the group activities at Kominkan, a community center, and key persons in a community.

Investigations revealed the following. Many group activities consist of a network between friends. Members of these group activities place a greater emphasis on friendship than on the activities themselves. More than 30 key persons act as steering members of the community events and activities of the residents' association. These key persons connect community members who would not otherwise come into contact with one another. Most key persons are currently or were formerly members of group activities at Kominkan.

Keywords: the mini-development residential, group activity, key person, community, Kominkan

ミニ開発住宅地, グループ活動, キーパーソン, 地域社会, 公民館

1 はじめに

1.1 研究の背景

福祉や防犯, 防災等々の点からコミュニティの必要性が説かれることが多い。また生活圏が縮小する高齢者にとっては居住地域における利便性や付き合いの重要度が増す^{1)~3)}、現在, コミュニティの重要性が増してきた。しかし今日の生活では通勤・通学はもとより, 買い物や娯楽等の日常生活まで地域外に拡大しており, コミュニティが自然発生的に成立する基盤は少なくなっている。トラブルや煩わしさの伴う近所付き合いや自治会活動を嫌がり, 地域内で付き合い合う相手は, 趣味や子供を通じて知り合って気の合う, いわゆる選択的人間関係がほとんどという人が増えている。しかし選択的人間関係であっても, それが同じ地域内に居住することによって成立しているなら, その活動は地域内に展開し, 仲間を通じて知り合う住民相互のつながりも生じてくる。そこにコミュニティ形成の可能性が認められれば, 地域施設計画の指針につながるのではないだろうか。

1.2 研究の目的

本研究は川口市S地区(1960年代に一斉開発されたミニ開発住宅地一図1)を対象とする一連研究^{4)~6)}の継続である。既報では, 住宅が密集するこの地区に点在する「飲み屋」と「近隣商店」がこの地区住民の近隣交流の場となっていること, 路上や路地で立ち話す

る人が多いことなどを報告した。

筆者らは2004年以来の参与型調査の積み重ねで, この地区には, 町会や商店会, PTA, レク協^{注1)}などの市設置団体, 政党・宗教関係^{注2)}, 同級生, 親族にいたるまで数多くのグループ・組織がある^{注3)}こと, また, 各構成メンバーは互いに複層的に関係しながらこの地区の人間関係を形成していることが分かってきた。

本論では, こうしたグループ・組織のうち, 「飲み屋」や「近隣商店」より交流相手が特定され, 選択的人間関係を形成している公民館に利用登録^{注4)}している趣味グループについてその活動実態と構成員について報告する。また, この地区にある数多くの行事の中から, 各グループ・組織間の関係が分かりやすく示される「文化祭」を取り上げ, その実態と関係を示す。また, 「文化祭」における活動を主な例に挙げて, コミュニティ形成に大きな役割を果たしている, 数多くのキーパーソンの存在を明らかにし, その性質とコミュニティ形成に果たす役割を考察する。

1.3 既往研究

集会施設等のグループ活動に関する既往論文には, 櫻井ら^{7)~10)}の膨大な資料を基にし, 生活時間と階層的視点で, 活動への参加動向から施設計画を提案した一連研究がある。川岸ら^{11)~13)}は地域と年代の差から余暇活動を分析し, 施設計画につなげている。どちらも施設計画の基礎資料となる量的把握を目指しているが, 本研究の

* 日本大学生産工学部建築工学科 修士(工学)

Dept. of Architecture Engineering, Graduate School of Industrial Technology, Nihon Univ., M. Eng.

** 日本大学生産工学部建築工学科 教授・博士(工学)

Prof., Dept. of Architecture Engineering, College of Industrial Technology, Nihon Univ., Dr. Eng.

ように個々のグループ活動の質的内容を取り上げたものではない。

コミュニティの更新に関する研究には、鈴木ら¹⁴⁾による行事をきっかけにコミュニティの担い手を育成する場の研究や、菊池ら^{15)~18)}による伝統文化伝承によるコミュニティ継続の可能性に関する研究がある。ただ、どちらも伝統文化が残る地域を対象としている。

コミュニティ活動におけるキーパーソン的重要性は種々の著述物¹⁹⁾に書かれているが、研究対象として取り上げたものは極めて少ない。田中ら^{20)~22)}による、大阪のコミュニティー・カフェに関する研究では、主(あるじ)の重要性が述べられているが、この主は特定の個人で、本研究のように複数のキーパーソン一般性を対象としたものではない。

2 調査概要

2.1 対象地区と公民館等の概要

この地域は周囲を2市の市境界線と線路、高速道路および大団地に囲まれた面積0.342k㎡の地域で、1町会・1小学校・1公民館が存在する。人口6024人、世帯数2829世帯(2009/2/1現在)で、高齢化が進んではいるものの若い世代も多い。開発時の古い住宅や隣地利用の増改築が多い²³⁾が、近年建替が目立つようになっている。2項道路には「あふれだし」や「表出」、「立ち話をする人」が多く、「下町的」雰囲気がある。近所づきあいも他地域に比べ極めて多く²⁴⁾、コミュニティが存在しているとみることができる。

図1に示すS公民館は、昭和45年11月から運営を開始し、昭和48年・54年に2度増築をしている。RC2階建て、延べ床面積376.39㎡、川口市で最も小規模な公民館である。室構成は調理室・日本間を含む計5室で、職員は館長を含む2名と派遣職員1名の計3名である。S青少年センターは、木造平屋建て、20畳の和室に台所とトイレの付いた建物で、昭和55年6月に開館した。ボランティアによる管理がなされ、公民館の補助的な使用がされている^{注5)}。

2.2 グループ活動に関する調査

(1) アンケート調査

調査対象：S公民館に利用登録している34グループ^{注6)}の、調査実施日における各グループ活動の参加者、計477人。

アンケート内容：性別、年齢、住所、職業、参加率、入会のきっかけ、満足度。複数入っている場合のグループ名、住所は記述式で、他は選択式である。

調査期間：2006年6月～2007年2月

(2) ヒアリング調査

調査対象：37グループの代表者。

内容：グループ発足の経緯(きっかけ)、活動状況、メンバー数、年齢層、会費、勧誘方法、連絡方法、「先生」の有無、発表の機会、地区内行事への参加状況、公民館外での活動、代表者本人について(代表者歴やなった理由等)。

調査期間：2006年6月～2007年4月

(3) 参与型観察調査

筆者らがグループ活動に参加し、観察内容を記録した。

調査回数：37回

調査期間：2006年5月～2007年4月

2.3 行事や町会等の活動、キーパーソンに関する調査

(1) ヒアリング調査

図1 研究対象地区

調査対象：町会長(3名)、町会役員(22名)、公民館長(1名)、小学校長(2名)、地区選出市議会議員(1名)、交通安全協会員(2名)、レクリエーション協会役員(4名)、商店会長(1名)、青少年センター責任者(1名)、老人会長(1名)、PTA会長・役員(3名)、体育指導員(2名)、川口市自治振興課課長・係員(6名)、計49名

内容：各人の仕事内容、地域活動への参加の経緯、地域への思い等。

調査期間：2006年5月～2009年2月

(2) 参与型観察調査

筆者らが、地区行事や町会活動等に実行グループの一員^{注7)}として参加し、活動内容を記録した。

調査回数：82回^{注8)}

調査期間：2004年5月～2009年2月

3 グループ活動について

3.1 活動年数およびメンバーの動向

活動年数が11年以上のグループは、公民館発足時からの3グループを含む15グループ(48.4%)であり、活動年数が1～10年間のものは16グループ(51.6%)である。

図2に示すように、設立時よりメンバー数が増えているグループは活動年数が10年以下の新しいグループが多く(8/11)、メンバー数が減っているグループは古くからのグループが多い(8/11)。これは、古いグループのメンバーの多くは高齢化しており、気力や体力の減少が関係しているためと思われる。メンバーの平均年齢が若い^{注9)}「Sジャイアンツ(少年野球)」は、活動年数が古い(18年)がメンバーは増えている。また、活動年数が20年の「民謡同好会」もメンバーの平均年齢が71才と高いにも関わらず、設立時よりもメンバーが増えている。これは、月10回練習し、年10回以上発表会に出場する活動の活発さのためである。

3.2 活動回数および一回あたりの活動費

図3に示すように、活動回数は月2回のものが全体の54.1%(20/37)と一番多く、月2回以下の活動頻度の低いものは全体の約7割(25/37)である。その中には年3・4回のみ活動している「Sスキークラブ」と「楽打会(ゴルフ)」の2グループが含まれる。一方、週1回以上の活動頻度が高いグループは約3割(12/37)で、その中には毎日活動している「S寿富士ゲートボールクラブ」がある。

図4に示すように、1回あたりの活動費は25グループの全てが1500円以下と、一般的なお稽古事と比べると安い。つまり、これらのグループ活動に対するメンバーの時間的・経済的負担は極めて低い。

3.3 友人知人による私的なグループ活動

図5に示すように、グループ設立のきっかけは、趣味仲間や友人、近所つながりなどの私的な勧誘で始まったグループが半数近い(16/34)。残りの半数は、公民館や、市、町会、学校が主催した教室や大会等の公共の行事をきっかけに始まっている(18/34)。しかし、公共の教室や行事ではじまったグループであっても現在はほとんどが私的なグループとなっている。現在も市から経済的な援助を受けて活動を行っているのは子どもの活動を対象とした「わんぱく卓球」と「おやこの遊び広場」のみである^{注10)}。

図6に示すように、グループ活動における「先生」の有無は、有のグループが多い(29/35)が、その中の34.5%(10/29)が「先生」に月謝を払っていない。つまり「先生」が指導をするというよりは、上手な人がアドバイスをする形態を取っており、「先生」もメンバーの一員である。このことから「先生」無の6グループと合わせて全体の約半数のグループ(16/35)が「先生」も含めた仲間同士のグループ活動であると分かる。

メンバーの勧誘方法は公民館、学校、市の広報に載せたり、ポスターやチラシを配って「積極的に勧誘している」グループが58.6%(17/29)である。一方、「勧誘をまったく行っていない」、もしくは「特には何もしていないけれど、強いて言えば口コミによって勧誘している」という積極的な勧誘を行っていないグループが41.4%(12/29)である。しかし、積極的な勧誘をしていないグループでも3分の1(4/12)はメンバー数が増えている。

以上のように、公民館を利用したグループ活動の多くが友人・知人のネットワークで成り立っていることがわかる。

3.4 グループ活動時以外のつきあい

通常のグループ活動以外の活動として、S地区最大のイベントである夏祭りに参加しているグループは16.2%(6/37)、夏祭りに次ぐイベントである文化祭に参加しているグループは64.9%(24/37)である。こうした他グループと共同で行う活動の他にメンバー全員で行く旅行(日帰りを含む)を行っているグループが約7割(14/21)で、新・忘年会や懇談会、慰労会、総会といった機会に飲み会を開催しているグループは更に多い(25/29)。

実際にグループ活動に参加して観察すると、飲み物やお菓子を持参し分けあっているグループがほとんどで、「民踊同好会」などは2時間の活動の後に2時間もお茶会の時間を取っている。この様にどのグループも、メンバー同士が仲良くつきあい、主目的のグループ活動^{注11)}だけでなく、メンバーに会うことを楽しみにしている様子であり、グループ活動の枠を超えた友人同士の交友関係を築いている。

4 グループ活動のメンバーについて

4.1 グループのメンバーの年齢と男女比

図7に示すように、メンバーの年齢層は60代以上が大半を占める(62.9%)。男女比は20代から50代は男性の比率が高く(73.7%)、60代、70代は女性の比率が高い(66.0%)。

グループ別に見ると「Sジャイアンツ」「わんぱく卓球」「レインボー(工作)」は小学生以下を対象としたグループ活動である。

図2 設立当時と現在のメンバー数の動向

図3 グループの活動回数

図4 1回あたりの活動費

図5 グループの発足のきっかけ

図6 「先生」の有無

図7 グループ全体の年齢別男女比

大人を対象としたグループでは、表1に示すように40代以下のメンバーがいるものは5グループだけで、残りの全てのグループは50代以上のメンバーから成っている。

4.2 グループにおける男女の傾向

グループ別の男女比を見ると男性(219)が多いのは、順に、「Sジャイアンツ」(37)、「Sソフト(ソフトボール)」(33)、「ファザーズ(ソフトボール)」(23)である。女性(256)が多いのは順に「カナリア(合唱)」(27)、「Sジャイアンツ」(19)、「民踊同好会」(16)である。男性は、野球やソフトボールなどの運動系のグループに多く所属しているのに

対して、女性は、合唱、絵手紙、書道といった文化系のグループに多く所属している。

4.3 グループ活動への満足度・参加率

グループ活動への満足度(図8)では、「満足」と「やや満足」が合わせて9割近い(335/379)。参加率は、毎回参加している人が全体の約3分の2(249/378)である(図9)。また図10に示すように複数のグループ活動に参加している人は約半数である^{注12)}。アンケート調査はグループ活動時の参加者を対象に行っている為、満足度の高さと結びついていると見ることもできるが、公民館長の話によれば、グループ活動へ登録を行っているにも関わらずグループ活動に参加していない人^{注13)}は少ないとのことである。

グループ活動のメンバーの職業の有無(図11)では、無職の人数が定職者より多い(62.2%, 230/370)が、職業の有無とグループ活動への満足度・参加率との関係は薄い。

4.4 グループ活動への参加理由

グループへの入会理由(図12)は、友人からの紹介を理由に挙げた人が圧倒的に多い(46.4%)。次いでやりたい事的一致(17.9%)、その他(12.9%)、知り合いがいたため(8.4%)と続くが、やりたい事の一一致や公民館内での掲示を見て等の自主的な理由を挙げた人よりも、友人からの紹介や知り合いがいたため等の入会以前からグループのメンバーを知っていたことを理由に挙げた人の方が多い。このことからやや満足しているグループ活動のメンバーは、友人同士のつながりによって参加している人が多いことがわかる。

4.5 居住地

グループ参加者の居住地は図13に示す通りで、S地区が1丁目・2丁目合わせて75.8%である。つまり、グループ活動は地域居住者中心に展開している。

5 特徴のあるグループについて

S地区には活動内容が同じグループが複数存在する。踊りやソフトボールが各5グループ、カラオケが3グループ等である。各グループの活動内容はほとんど同じだが、それぞれ異なる目的や設立過程を持っている。

全部で5グループあるソフトボールチームを例にとると、「Sソフト」「ホビーズ」「ファザーズ」「商店会」の4チームはそれぞれ日曜日にS小学校の校庭で練習を行い、年に4回、4チームのリーグ戦を行っている。この試合は町会が主催し、レク協から優勝杯が授与される町ぐるみのイベントとなっており、4チームからの選抜メンバーによる代表チームは市の公民館対抗ソフトボール試合に出場している。4チームの年齢層(図14)は20代から50代の人が69.2%(63/91)で他のグループメンバーに比べて若い。

各チームの60代以上の選手の中には、チームに登録しているが、若い人に活躍を譲り、試合には参加せず審判やスコアラーなどを行ってチームを支えている人達がいる。彼らは「SOBソフト」という高齢者だけのチームを作り、月2回活動し、他4チームとも試合を行っている。このチームは、50歳以上の地区居住者のみ所属可能なチームである。

4チームのメンバーの居住地は図15に示すように、チームの発足理由によって異なる特徴が見られる。居住地が最も集中しているのは「ファザーズ」で、同一マンションの住人を中心に結成されたチームである。また「商店会」チームの住まいは商店街沿いに多い。「ホビーズ」は

表1 グループ別年齢構成 (バーレン括弧内女性)

グループ名	未就学児	小学生	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
Sジョイアンツ(少年野球)		25		1	7	2	1				1(19)
Sソフトボールクラブ				5	3	6	16	3			
商店会ソフトボールクラブ			1	8	5	1	1	2			
ファザーズ(ソフトボール)			5	4	1	9	4				
ホビーズソフトボールクラブ			1	4	3	7	2				
S卓同好会(卓球)			1(1)			2	5(4)	5(1)			(1)
Sゲートボールクラブ							3	3(1)	2	1	
S楽走会(マラソン)						(2)	1(3)				
Sミニテニスクラブ						2(4)	4(2)				1
青葉会(社交ダンス)						5(4)	1(8)	1			1(1)
レイナニフダンス							(8)	(1)			
鈴音会よさこいソーラン節						(3)	6(1)	1(1)			(1)
民謡同好会						(1)	(6)	(7)	(1)		(1)
民謡愛好会						2	2(5)	6(3)	(1)		(1)
歌謡同好会						1(2)	1	2			
Sカラオケ同好会							(7)	5(7)			
S歌友会						(1)	(4)	1(1)	1		
S囲碁将棋同好会						2	1	2			
S大正琴真月会							(5)	(2)			(1)
リボンフラワー							(2)	(1)			
カトレア会(生花)						(2)	(6)	1(3)			
S水墨画クラブ							1(4)	(2)			1(1)
Sフォトサークル							1(2)				(1)
S書道クラブ						(3)	(4)	(2)			(1)
鎌倉彫クラブ							(1)	(1)			
木彫りクラブ							(1)	(1)	1		
絵手紙サークルこすもす						(4)	(6)	(1)			(1)
リリィウクレレクラブ						1(1)	(6)	(1)			
エーデルワイス(コーラス)							2(6)	6(8)			(1)
カナリア(合唱)						(2)	3(6)	1(6)			1(1)
ふれあい21(総合)							(7)	(3)			
レインボー(児童の工作)	1(1)	1		(3)							
わんぱく卓球(児童の卓球)		6(15)									
おやこの遊び広場	1(1)										
計	2(2)	31(15)	8(1)	22(3)	19	35(25)	53(107)	38(71)	5(2)	1	5(30)

図8 グループ活動の満足度

図9 グループ活動への参加状況

図10 複数のグループに参加

図11 職業の有無

図12 グループへの参加理由

図13 グループ参加者の居住地

図14 4チームのメンバーの年齢構成

『ホッピー』という名の居酒屋の店主が店の客や友人などの飲み仲間を集めて結成したチームである。その為メンバーの居住地は地区内外に広がっている。また、「Sソフト」は今年で結成33年になる4チームの中で最も古いチームで、メンバーの居住地は地区内に分散している。

このようなチームの特徴は、試合後の過ごし方にも現れる。2006年7月16日各チームの試合後の過ごし方は以下のとおりである。「ファザーズ」は父親達のチームであり、家族との時間を重視し試合後すぐに自宅に帰った。「商店会」と「Sソフト」はS地区内にある酒屋の横の空き地でビールケースを椅子にして共に夕方まで飲んでいた(写真1-①)。「ホッピーズ」は同じ酒屋近くの習字教室の部屋を借り、こちらも夕方まで飲んでいた(写真1-②)。どちらもこの酒屋で酒やつまみを「つけ」で購入していた。

6 「文化祭」を通してみたグループの関係

6.1 S地区の行事

S地区には数多くのグループや組織があるが、その中で大きなものは町会、公民館、小学校、商店会連合である。この4組織の行事は表2に示すとおりで、年間100種以上あり、グレーの部分が全住民向け^{注14)}である。ソフトボール大会や卓球、ミニテニス等のスポーツ行事、防災訓練や清掃等の生活関連行事、花見や餅つき等の季節行事があり、特に参加者が多いのが、表中に破線で囲んだ、夏祭り、文化祭、小学校運動会^{注15)}、餅つき大会である。公民館で開催された2006年の「文化祭」を例として取り上げ、行事がいくつかのグループ間の協力で行われていることを示す。

6.2 「文化祭」について

「S公民館地区文化祭」は公民館開館以来毎年開催されており、2006年11月4日・5日は35回目となる。

2日間の開催時間は午前10時～午後4時。会場は図16に示すように、公民館を中心とした5箇所である。模擬店・展示・芸能発表・スポーツ・その他の5部門がある(写真2-(i)～(v))。その他に、入り口には年間行事、駐車スペースには行事のスナップ写真を飾り、スナップ写真は各自が勝手に剥がして持ち帰ることができる(写真2-(vi))。芸能発表はもとより、パンフレットから展示、模擬店の飲食物まで素人の手作りである。大学の学園祭等に比べ派手さに欠けるが、S地区居住者の素朴さや温かさが感じられると、市職員や議員等、他の公民館を見ることが多い来場者の評価が高い。

6.3 参加グループ

参加グループは表3に示すように通常公民館で活動している37グループの内24グループ(64.9%)、町会など公的な組織3グループ、通常公民館を利用していない8グループの計35グループである。公民館を利用していない8グループの内、2グループが個人参加者で、芸能発表の部に参加している3グループは、青少年センターの活動グループ、残りの3グループはヘルパーステーションの活動グループである^{注16)}。

6.4 参加者・来場者

この文化祭は、公民館行事ではなくS地区の行事になっている。図17は、文化祭参加者の所属関係を示している。

主催は図中の太線で示した文化祭実行委員会、地区居住者52名によって構成される。メンバーの9割は公民館利用グループメンバーだが、町会役員やレク協役員も含んでいる。後援は町会及びレ

図15 4チームのメンバーの居住地分布

①「商店会」「Sソフト」
写真1 試合後の風景

②「ホッピーズ」

表2 S地区の年間予定(H19年度、グレーの部分が全住民向け行事)

日程	S町会	S公民館	S小学校	S商店会連合
3月	会計監査(11) ひまわりフレンズ協賛 町会卓球大会(12)	S町会総会(9)	始業式(10) 入学式(11) 1年生を迎える会(14) 授業参観懇談会(17・18) 一斉下校訓練(24)	町会の総会に来賓として参加(9)
4月	第47回定例総会(9) 1丁目公園桜まつり 町会ソフトボール大会(23) 子供研学会(29) 班長会議	レクリエーション協会総会(15) Sソフトボール大会(23) 芝ブロック卓球大会(16) 各種団体総会	交通安全教室(9) PTA総会・数送道会(19) 児童引渡し訓練(28)	ふるさと祭りの指導開始
5月	芝ふるさと祭り(14) 管理設備品説明会 町会ミニテニス大会(9) 合同会議 日赤社員募集協賛 防災アンケート実施	芝ふるさと祭り(14) 芝ブロックレクリエーション協会総会(13) 芝ブロック壮年ソフトボール大会(21) S町会合同会議	不審者対応避難訓練(6) プール開き(7) ゆめワーク芝園中(7～9) 学校閉校(9) 芝園地区PTA連絡総会(9) ふれあいなわとび大会(10) エコライフデー(11) 親子レク(21) 地震避難訓練(23) 総合文化祭(29)	
6月	芝富士防災訓練(4) 消火器訓練	芝ブロック婦人バレーボール大会(11) 芝ブロック男子バレーボール大会(25)	親子レク(21) 地震避難訓練(23) 総合文化祭(29)	
7月	町会総会(22・23) 防災話し合い 広報25号発行 防犯話し合い	S町会総会(22・23) 芝ブロックミニテニス大会(25) 公民館運営審議会(25) 青少年育成協議会会議(25)	S町会総会(22・23) 親子レク(5) クルーズ大作(7) 終業式(20) 川口国際文化フェスティバル(29)	夏祭り・協賛(22・23) ほろろ祭り・夜更け(24)
8月	子供ゲートボール交流大会(23) 市たたら祭り参加(5日) 防災話し合い	S地区献血会(11) 川口市たたら祭り(5・6)	始業式(1) 運動会(9) 運動会(9)	那須へ日帰り旅行(10)
9月	芝地区防災の集い 婦人部研修旅行 敬老の日(15)	芝地区防災訓練(3) 地区レク協賛ソフトボール大会(10) 芝地区長寿を祝う会(16) ※新年会等の部屋事前確保	始業式(1) 運動会(9) 運動会(9)	餅つき大会(27)
10月	芝地区秋季体育祭(1) 町会フットベース大会(22) 共同募金協賛 全市民クリーンタウン作戦 防災話し合い	S町会フットベース大会(22)	芝地区体育祭(11) 親子レク(20・2年)	餅つき大会(27)
11月	広報26号発行 防犯話し合い	S町会フットベース大会(22)	芝地区体育祭(11) 親子レク(20・2年)	餅つき大会(27)
12月	親子研修会(16) 防災S町内一斉点検 夜警の実演(12/25～1/6)	S地区献血会(7) 防犯教室(下旬)	芝地区体育祭(11) 親子レク(20・2年)	餅つき大会(27)
1月	親子研修会(16) 防犯S町内一斉点検 夜警の実演(12/25～1/6)	S町会新年会(21) 芝地区レク協賛ソフトボール大会(10) 芝地区長寿を祝う会(16) ※新年会等の部屋事前確保	芝地区体育祭(11) 親子レク(20・2年)	餅つき大会(27)
2月	広報27号発行 防犯話し合い(25/3・25)	市公民館地区対抗ミニテニス大会(25)	入学児童保護者説明会(2) 保護者・地域説明会(4) 授業参観会・懇談会(20・23) 川口市ふれあいなわとび大会(10) 卒業式(23) 終了式(26)	餅つき大会(27)
3月		芝地区体育祭(11)		

ク協、協力が交通安全協会および公民館だが、すべてS地区に所属する。

太破線で示した来場者の中心は、公民館利用グループメンバーの家族・友人・知人である。彼らと無関係で、「文化祭を覗きに来た」という居住者もほとんどは文化祭会場にいる利用グループメンバーの誰かとは知り合いであり、会場のいたる所で交流している姿が見られた。来場者の世代は、中高齢者中心だが、子供や孫、幼児や小中学生、20代の若者も多い^{注17)}。

図17中の交通安全協会^{注18)}は交通安全に関する地区内ボランティアグループで、文化祭には6名が参加し、自転車の整理や車の誘導を行った。

参加者の内訳は実行委員とスタッフが80人、手伝いの人が2日間で120人の計200人。パンフレット配布数が1日目350部・2日目450部の計800部であることから少なくとも1000人以上の来場者があったと思われる。

7 キーパーソン

7.1 キーパーソンの成立要素

筆者らがグループ活動や「文化祭」を始めとする種々の行事や役員会等と一緒に行動しながら行事や町会の運営・活動を観察すると、住民同士や各グループ、組織のメンバーを結びつけている人々の存在が分かってきた。この結び目となる人をキーパーソンと呼ぶ。キーパーソンの中には、グループ・リーダー的な人物もいるが、人と人との「つなぎ役」という役割を果たしている人がほとんどである。そしてS地区には30人以上のキーパーソンが存在している。(図18)

注19)

各キーパーソンの行動を観察すると、それぞれ属性(性別、年齢、職業等)や個性は違っているが、以下の3つの要素のいずれか(あるいはいずれも)を備えている(図19)。

要素①は、複数のグループ・組織に所属し、グループとグループの結び目になっているキーパーソンが持っている。図18中のSa夫さん(67歳)がその例で、彼は交通安全協会のメンバーであり、ソフトボールチーム「SOBソフト」のメンバーでもある。また、公民館を利用した「Sカラオケ同好会」や「S寿富士ゲートボールクラブ」のメンバーでもある。このSa夫さんがいることで、Sa夫さん以外の交通安全協会のメンバーとソフトボールのメンバーが知り合いになったり、ソフトボールのメンバーでカラオケ好きの人がSa夫さんの紹介でカラオケのクラブにも参加するようになるなど、Sa夫さんはSa夫さんの所属するグループのメンバーをグループの枠を超えて結びつけている。

要素②は、地域の行事や出来事のほとんどに、ある機能を持って参加し、場面・場面で人を結びつけているキーパーソンが持っている。図18中のIwさん(60代)がその典型で、彼はグループとしては交通安全協会にしか所属はしていないが、その役柄から文化祭や夏祭り等の地区行事には毎回参加し、交通整理などの仕事をしているので、住民のほとんどがIwさんのことを知っている。温厚な人柄で多弁ではないが、住人はIwさんを通じて互いにあいさつし合う仲になっている。キーパーソンではなくとも美容院や喫茶店等の店主^{注20)}も同様な性質を持っている。

要素③は、会長や校長といった“長”の名のつく人に代表される

図16 文化祭会場

写真2 文化祭の風景

表3 文化祭参加グループ

2日間参加グループ		1日目のみ参加グループ	2日目のみ参加グループ
【展示の部】	【模擬店の部】	【芸能発表の部】	【芸能発表の部】
S書道クラブ リボンフラワー カトリア(生け花) S水墨画クラブ Sフットサル 木彫りクラブ ふれあい21 ①	ふれあい21 Sジャイアンツ フォーゼス Sソフトクラブ ミニテニス ② S町会自主防災隊 ふれあい喫茶(ジャージカフェ) ⑤ ふじの会	大正琴真月会 民謡愛好会 ① 鈴音会よさこい 民謡同好会 花富士会 ④ 鈴音会 華の会	カラオケ同好会 レイナニフササークル カナリア(合唱) リリウクレレクラブ ③ マジック
⑤ ゆりの会(アメリカンフラワー) ③ 個人出展(写真・絵画)	① S団基同好会 ⑤ いきいきサロン ふじの会		【スポーツの部】 ① SOBソフトボールクラブ 【模擬店の部】 ② レクリエーション協会
凡例 ①公民館利用グループ(22) ④青少年センター利用グループ(3)		②公的なグループ(3) ⑤ヘルパーステーション利用グループ(3)	
		③個人参加者(2)

図17 文化祭参加者の所属関係

そして、実際にはこの地区のほとんどのキーパーソンは図 20^{注 21)}に示すように、この 3 つの要素を合わせ持っている。図 18 中の Im さん(76 歳)の例でいえば、Im さんは十年以上前から毎年餅つき大会の手伝いとして参加し、現在も若い人に米の蒸らし方や臼の仕舞い方等を指導する重要な役割を果たしている(要素②)。また、退職をきっかけに趣味のグループ活動に積極的に参加し、現在 7 グループに所属し、Sa 夫さん同様各グループのメンバーを結びつけている(要素①)。また同時に全 S 公民館利用グループの代表“長”として公民館運営審議会等の会議に出席している(要素③)。

キーパーソンは、元来キーパーソンになりうる「親切」「面倒見が良い」「情に厚い」といった資質を持っていると考えられるが、自ら進んでキーパーソンになる人は極めて少ない。ほとんどの人は何かしらのきっかけで地域社会と関わり始め、その後キーパーソンとなっている。

キーパーソンの多くは 60 歳以上の中高齢者だが、中には 50 代以下の人もいる。このような、比較的若い世代のキーパーソンの中には、小学校 PTA 役員や「S ジャイアンツ」の保護者のように子どもの成長に合わせて交代する人もいる。彼らのほとんどは子供の卒業と同時に活動も卒業してしまうが、活動当時知り合った地域の人との交流はその後も続く場合が多い。そして活動そのものは新しい子供の保護者によって受け継がれる^{注 22)}。

ただ人口が約 6000 人、極めて狭い徒歩圏内に小学校と近隣商店、公民館を持つ通過交通のない地域であり、コミュニティ形成を目指したペリーの「近隣住区」に近い条件を備えている^{注 24)}。また行き止りの 2 項道路や、狭小住宅、点在する零細な「飲み屋」と「近隣

図 18 キーパーソンの所属関係

商店」という地域環境は、防災上はともかく、地域住民が互いに何度も顔を合わせ、顔見知りとなる機会を増やしている。ペリーは子供を対象に近隣住区を考えたがここでは同様の環境条件が中高齢者中心のコミュニティ形成に大きな効果を発揮している。

本論で分析した公民館を利用したグループ活動や校庭で行われるソフトボールクラブ等は、あくまでも「楽しむ」為の自由な集まりであって、何の責任も強制力もない余暇活動である。しかし、地区の行事の際に、行事運営を実際に行っているのはこれらのグループのメンバーであり、地域活動のキーパーソンのほとんど（校長や公民館長を除いて）は、これら趣味グループに現在または過去において、一度は所属したことがある。本論でいうキーパーソンは、S地区のコミュニティにおいてグループやメンバー、行事を結び付ける要にはなっているが、発言力が強いとか、グループ長（リーダー）という訳ではない。彼らは趣味や行事を通じ選択的人間関係を築きキーパーソンとなってコミュニティを支えている。

防災や福祉、防犯等で、地域内の相互扶助力を高め、実際の行動につなげるためには、彼らのようなキーパーソンが必要であり、かつ更新されるものでなければならない。顔見知りや飲み屋の客同士といった気楽で無名の関係は、地域内の人間関係の基礎ではあるが、キーパーソンを生み出す直接的母体とはなっていない。しかし単なる「顔見知り」から「名前も知る人」、「挨拶を交わす人」が増え、「気の合う人」との選択的人間関係の可能性が生じる。この「気の合う人」との楽しみの集まりからキーパーソンが生まれ、更に活動が広がってコミュニティが維持され、更新されてゆく。

S地区では町会の範囲と、近隣店舗の商圈、公民館の利用圏、小学校区等の圏域が一致しているため、種々の行事や組織・グループの活動が同じ対象地区内で繰り返されることにより、相互に補完され、人間関係を深めて選択的人間関係の生じる可能性を増やしている。

近年の集会施設は大規模・複合化し、多様な選択肢があたかも「豊かな余暇生活」をもたらすように見ている傾向がある。しかし高齢社会では、より多くの「身近で」「気楽」で、「楽しい」グループ活動が存在する方が有用であり、同時にコミュニティ形成上も重要であると考ええる。

9 まとめ

S地区における公民館登録グループのグループ活動、及び、この地区のコミュニティにおけるキーパーソンは以下のような特徴を持つ。

- ① メンバーの男女比はほぼ半々であるが、60代以上のメンバーは女性が多く(63.8%)、50代以下は男性が多い(71.8%)。
- ② 各グループの活動年数と、メンバー数の動向は様々であるが、メンバー数が増えているグループは積極的に活動している。
- ③ 活動頻度が少なく、活動費も安い為、メンバーの時間的・経済的負担は小さい。
- ④ 9割以上のグループが自主運営を行い、約半数のグループが「先生」もメンバーの一員である仲間同士の活動である。
- ⑤ 多くのグループは友人知人のネットワークにより成立している。
- ⑥ 8割以上のグループが、通常のグループ活動以外に飲み会や旅

行等の活動を行い、グループ活動の枠を超えた友人同士の交流を活動目的としている。

- ⑦ 約半数の人が複数のグループに参加している。
- ⑧ グループ活動メンバーの3/4以上がS地区居住者である。
- ⑨ 地区行事はグループ活動のメンバー中心で、行われている。
- ⑩ 住民同士や各グループ・組織のメンバーを結びつけているキーパーソンが30人以上存在している。
- ⑪ キーパーソンの性質は3つの要素を持っている。要素①はグループとグループを結びつける。要素②は場面・場面で人を結びつける。要素③はグループの“長”であることで、各“長”で協力するネットワークを持っている。
- ⑫ キーパーソンの多くはグループ活動の現在もしくは過去のメンバーである。

謝辞

本研究は、各グループメンバーの皆様、並びに、S地区居住者の皆様のご協力で成立致しました。特に加藤裕久公民館長のご協力に心より感謝致します。

尚、本論文は平成19～20年度の文部科学省研究助成金助成研究の一部である。

注

- 注1) 正式名称はS地区レクリエーション協会。川口市により、S地区に設置された、スポーツ・レクリエーションの普及と促進を図る団体。公民館利用グループの多くが参加している。役員は約8名の地区居住者のボランティアからなる。
- 注2) この地区に政党や宗教関係の組織があることは、選挙時や日常会話などから推察されたが、調査は行っていない。
- 注3) この地区には福祉や教育に関する活動を行っている民生委員や育成委員なども存在しているが、彼らは町会を通して委員を引き受けている。社会福祉協議会からわずかながら支援を受けている活動も、参加者は町会活動の一部と思っている。
- 注4) 公民館をグループで利用する場合、事前に協議書を公民館に提出し、団体登録しなければならない。
- 注5) 川口市の、青少年センターは、町会会館のない地域に設置される、青少年育成の為の研修や集会を行う施設。S地区では、近隣マンション建設の現場事務所として建てられた建物を、マンション完成後、建設反対派であった人達に贈与され、その後市に移管した。公民館利用グループの一つである「ふれあい21」が管理(鍵や利用者の時間割管理、清掃等)している。登録団体は利用料無料である。
- 注6) 登録している全37グループの内、年に数回しか活動しないゴルフ・スキー・マラソンの3グループを除く。
- 注7) 筆者らが「お手伝い」(放送係り、子供引率、売り子、餅つき、神輿担ぎ等々)として行事や自治会活動へ、準備から片付け・反省会まで参加。
- 注8) 既報で報告した「飲み屋」の客や、「食品店」の店員、その他「八百屋」「酒屋」「パーマ屋」等の客としての参与型調査においても行事等の話はしているが、それは今回の調査回数には入れていない。
- 注9) 「Sジャイアンツ」の子どもメンバーの平均年齢は9.8歳。その母親は30代が中心と推察する。監督・コーチの平均年齢は46.7歳である。
- 注10) この他に社会福祉協議会からごくわずかながら活動支援を受けているグループは2グループある。
- 注11) 3つあるカラオケグループの内1グループは「自分達は上達を目的としている」と他2グループとの違いを主張していたが、このグループも実際にはメンバー同士菓子や飲み物を飲食しながらおしゃべりも楽しんでいた。
- 注12) 複数グループに参加の場合、グループ名が記述式回答であった為、グループ名が不確かな回答もあった。

注13) 俗にいう「幽霊部員」。

注14) 地区住民なら誰でも参加できるように広報されている行事。

注15) 小学校運動会は小学校主催行事であり、参加者は児童とその家族が中心であるが、来場者の高齢者の中には、孫のいない高齢者の姿も見られ、その他卒業生など多くのS地区住民の参加があることから、S地区行事と位置づける。

注16) ヘルパーステーションの活動グループは、通常他地域を含めて活動しているが、ヘルパーステーションの建物を文化祭会場として利用するため、グループとしても3グループ参加していた。

注17) グループ活動に直接関係のない中学生5・6名が「同じマンションのおじさんに誘われた」為に、公民館内に設けられた「ふれあい喫茶」を手伝っていた。彼女達がジャージを着ていたことから2日目は「ジャージカフェ」と改名した。

注18) 交通安全協会S支部の仕事は交通安全週間の際に地区住民に交通安全をPRしたり、4月の新学期には新入学生に交通指導を行う。また、文化祭などのS地区の行事の際に交通整理を行い、市の行事にも要請があれば参加する。

注19) 図18は公民館長をはじめ数人の地区有力者の承認済みである。

注20) この地区にはいないが交番のお巡りさん等も同様な性質を持っている。

注21) 図20は各人の各要素について6段階(「極めて大きい」「かなり大きい」「大きい」「やや大きい」「その傾向がある」「全くない」)に判断した図である。

注22) 次報では町会活動の若返りに効果のある子供に関係するグループ・組織について報告する予定である。

注23) ミニ開発で一斉に住み始めた地域なので伝統的地域のような有力者がいない点が特徴である。地区内の各住宅の規模等も似通っている。

注24) 「近隣住区」に挙げられた、オープンスペース等、満たしていない条件もある。

参考文献

- 1) 斎藤芳徳, 外山義, 鈴木浩: 居住地域における高齢者の外出行動と人的交流に関する考察 -在宅高齢者と施設居住者の比較研究-, 日本建築学会計画系論文集, 第532号, pp. 125-132, 2000.6
- 2) 井上由起子, 大原一興, 小滝一正: まちづくり活動への参加と高齢期の地域生活に関する考察 -高齢期における地域生活に関する研究 その1-, 日本建築学会計画系論文集, 第547号, pp. 103-110, 2001.9
- 3) 井上由起子, 大原一興, 小滝一正: まちづくり活動への参加と地域生活の変容に関する考察 -高齢期における地域生活に関する研究 その2-, 日本建築学会計画系論文集, 第565号, pp. 121-128, 2003.3
- 4) 曾根陽子, 松村朋: 1960年代のミニ開発に関するおける研究-埼玉県川口市S地区の住宅更新について-, 日本建築学会技術報告集, 第24号, pp. 281-284, 2006.12
- 5) 曾根陽子, 武田有紀: 1960年代のミニ開発住宅地における研究 -その1 飲み屋の利用実態から-, 日本建築学会計画系論文集, 第608号, pp. 11-18, 2006.10
- 6) 曾根陽子, 香山愛理: 高齢者の交流の場としての近隣型小売商店の役割 -1960年代のミニ開発住宅地における近隣コミュニケーションに関する研究 その2- 日本建築学会計画系論文集, 第635号, pp. 83-89, 2009.1
- 7) 桜井康宏: 余暇生活のグループ化傾向からみた集会関連施設需要の構造 -集会関連施設の配置計画に関する研究 その1-, 日本建築学会計画系論文集, 第334号, pp. 128-138, 1983.12

- 8) 桜井康宏: 生活時間と階層的視点からみた余暇性向とグループ活動参加の動向 -集会関連施設の設置計画に関する研究 その2-, 日本建築学会計画系論文集, 第349号, pp. 32-42, 1985.3
- 9) 桜井康宏: 余暇生活グループ化の展開過程と施設要求の連関に関する事例的研究 -集会関連施設の施設需要論に関する基礎的研究-, 日本建築学会計画系論文集, 第371号, pp. 56-67, 1987.1,
- 10) 桜井康宏: 集会関連施設の段階構成と室構成 -集会関連施設の施設供給論に関する基礎的研究・その1-, 日本建築学会計画系論文集, 第398号, pp. 75-85, 1989.4
- 11) 川岸梅和, 北野幸樹: 時間的・空間的側面からみた余暇活動の動向と特性について 近隣余暇関連施設に関する研究 その1-, 日本建築学会計画系論文集, 第487号, pp. 167-176, 1996.9
- 12) 川岸梅和, 北野幸樹: 近隣空間における余暇活動の動向と特性について -近隣余暇関連施設に関する研究 その2-, 日本建築学会計画系論文集, 第498号, pp. 153-159, 1997.8
- 13) 川岸梅和, 北野幸樹, 杉本弘文: 異なる地域居住者の余暇活動の変化並びに活動実態からみた近隣空間における余暇活動の時間的・空間的活動特性 -近隣余暇関連施設に関する研究 その3-, 日本建築学会計画系論文集, 第628号, pp. 1221-1229, 2008.6
- 14) 鈴木麻衣子, 藍澤宏, 梅田美鈴: 行事にみる地域社会の担い手育成の場に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第560号, pp. 185-192, 2002.10
- 15) 柴田建, 貴田麻利江, 菊池成朋: 沖縄・Uニュータウンの生活史 -郊外住宅地における住環境の変容プロセスに関する研究 その6-, 日本建築学会大会学術講演概要集, E-2分冊(近畿), pp. 331-332, 2005.9
- 16) 貴田麻利江, 柴田建, 菊池成朋: RC住宅の柔軟性と地域の持続性 -郊外住宅地における住環境の変容プロセスに関する研究 その7-, 日本建築学会大会学術講演概要集, E-2分冊(近畿), pp. 333-334, 2005.9
- 17) 柴田建, 榎景子, 菊池成朋: 住宅地の成熟とこどもの地域環境 -郊外住宅地における住環境の変容プロセスに関する研究 その8-, 日本建築学会大会学術講演概要集, E-2分冊(九州), pp. 217-218, 2007.8
- 18) 榎景子, 柴田建, 菊池成朋: 地域での子育てと世代継承 -郊外住宅地における住環境の変容プロセスに関する研究 その9-, 日本建築学会大会学術講演概要集, E-2分冊(九州), pp. 219-220, 2007.8
- 19) “大都市圏におけるコミュニティの再生・創出に関する調査結果について”, 国土交通省 国土計画局 大都市圏計画課, <http://www.mlit.go.jp/kisha05/02/020801/01.pdf>, (参照 2007.05.12)
- 20) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏: 「下新庄さくら園」における目的の形成に関する考察 -コミュニティ・カフェにおける社会的接触-, 日本建築学会計画系論文集, 第613号, pp. 135-142, 2007.3
- 21) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏: コミュニティ・カフェにおける「開かれ」に関する考察 -主(あるじ)の発言の分析を通して-, 日本建築学会計画系論文集, 第614号, pp. 113-120, 2007.4
- 22) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏: 日々の実践としての場所のしつらえに関する考察 -「ひがしまち街角広場」を対象として-, 日本建築学会計画系論文集, 第620号, pp. 103-110, 2007.10
- 23) 4)に同じ
- 24) 5)に同じ
- 25) 6)に同じ

(2009年4月3日原稿受理, 2009年11月10日採用決定)